



※「つるみん」平成 26 年度第 38 回鶴嶺祭『ゆるキャラグランプリ』でグランプリを受賞。1 年 2 組小山田夏芽さん、塚塚麻未さん（旧クラス）の作品で、その思い（願い）は、3 つ。・「世界中を飛んで、鶴嶺の名を広めている鶴」・「好きなものは笑顔と思いやり」・「鶴高生と協力して、世界中を笑顔にするのが夢」です。

もう 2 月です。新しい 1 年が誕生するための試験があります。現 1 年生は昨年のことを思い出しますね。学年も 1 つ上がります。その準備に図書館を利用することを、お薦めします。2 学年で読んでおきたい本、3 学年には受験や小論文に必要な資料、お手伝いします。急ぎではなければ購入も一考します。お得を利用してください。司書



◆新ソファです。 ◆看板の手は誰の手でしょう？ ◆お菓子作りの本のパワイトゥに？ ◆こんな本もあるよコーナー

## 今月のおすすめ本 (司書 ver.)

『広岡浅子』 齋藤規子【著】 他。主婦と生活社【出版社】 NDC. 289 蔵書あり  
朝ドラ「朝が来た」観てますか？ 主人公は実際の方です。本には、また違ったおもしろさがありました。

### 高校時代に読んだ本

4 5 6 7 9 10 11 12 1 **2** 3

私の趣味は「旅行」と「読書」だ。自分でも、自分が「アウトドア派」なのか「インドア派」なのかよくわからなくなる時がある。ただ、二つの趣味の共通点を考えてみると、「自分が知らない世界に出会える」ということだと思う。私はまた自分が知らない物事を知ることがとても好きだ。単語にするなら「好奇心」だろうか。みなさんには、自分が知らない物事に対する好奇心はあるかな？

私が高校生の時、いわゆる「純愛小説」というものがブームとなり、映画化やドラマ化されたものも多い。その代表ともいえる作品『世界の中心で愛を叫ぶ』は、「セカチュー」と呼ばれ、二〇〇四年の流行語大賞を獲得した。「セカチュー」じゃないよ（笑）今の高校生は、「セカチュー」って言われてもきつと知らないよね。私が紹介する『いま、会いに行きます』も「セカチュー」と同じジャンルの小説である。高校生の私はあまり本を読む方ではなかったが、この作品はタイトルが気になった。しかし、「普通」の恋愛にさえ縁がなかった当時の私には、「純愛？」「なにそれ？おいしいの？」と、斜に構えながらも本は読んでみたい、という思春期にありがちな葛藤があった。最終的には「純愛」ってどんなものかな、という知らない世界に対する好奇心から勇気を出してこの本を手にとった。

現実の世界では死んだ人間は生き返らないので、一年前に死んだ妻が翌年の雨の季節に六週間だけ家族の元に戻ってくる（厳密には生き返ったわけではないが）、というストーリーは非現実的であり、絶対には信じられない。だけれども、お互いを想い合う優し切ない夫婦の関係やイングランドの王子様の無垢で愛らしい物語は、まだ私が知らない世界であるところの「純愛」として私の前にあらわれ、心に響いた。この本には綺麗な言葉が溢れており、特に後半部、妻からの手紙によってわかる「生き返り」の真相と妻からのメッセージは、涙なしには読むことができなかった。

いまだに現実の世界で、私は「純愛」に出会っていない。だけれども、この本に描かれた「純愛」との出会い、私自身の価値観に大きな影響を与えたのだと、この原稿を書くために約十年ぶりにこの本を読み返して改めて気付いた。

この作品は映画化されているため、本を読むことが苦手な人には、映画の方をおすすめしたい。映画も泣ける。ちなみに夫婦役を演じた俳優はこの作品での共演がきっかけで結婚した（が、その後わりとすぐに離婚した（笑）純愛ってなんだろう？）

旅行にはお金がかかり、高校生のみなさんにとってはいきなり気軽に乗れるものではないはずだ。しかし、たとえ日本全国や海外に旅行に行くことができなくても、学校の図書館や町の本屋さんにも、「沢山の未知の世界」が広がっていて、あなたとの出会いを待っている。（しかも図書館だと無料！）みなさん自身の世界（価値観・視野）を広げるためにも、是非とも高校生のうちから沢山の未知の世界に出会う機会を得てほしい。その経験は、必ずみなさんの将来に役立つことだろう。

『いま、会いに行きます。』 石川拓司【著】 小学館【出版社】 社会科 M.G